

1 実践の概要

実践校・園	県立能代養護学校
テーマ	児童生徒が、災害発生時に様々な危険を予測して安全に行動できるようにするための学校、家庭及び地域社会との連携
外部指導者	秋田県総務部総合防災課 上席主幹 村上俊一 氏
実施日時	平成24年9月5日(水) 15時30分から 16時30分まで
実施場所	秋田県立能代養護学校 会議室
参加者	職員25名 保護者 3名

2 実践内容

次第・講義内容等	時間(分)	準備・留意事項等
1 校長あいさつ	2	参加者である本校職員と保護者が災害発生時にどのような行動をすべきか、また、児童生徒に対してどのように防災教育をしていくかについて共通認識をもつことができるようにしたいと考えた。そこで、事前の打合せでは、地域における防災活動の課題を意識できるように、本県の防災に関する取組の紹介、東日本大地震における避難の事例の紹介が講義内容の中心になるように依頼した。
2 県地域防災計画について	10	
3 備蓄計画について	7	
4 秋田県の防災に関する活動状況(地域防災に関する調査研究、防災に関する人材育成、自主防災アドバイザー派遣事業)	10	
5 防災訓練の実施状況	8	
6 津波からの避難の際の心構え	15	
7 質疑応答	5	
8 教頭あいさつ	3	
	計60	

3 参加者の感想

職員	秋田県では災害に備えた対策が綿密に講じられていることが分かった。 学校、家庭でなくてはいけないことは、子ども達の生命を守ることであり、生命を守るということを中心に据えて、県や市町村、そして地域住民が防災対策を講じ、互いに連携していくことで災害を乗り越えていけると感じた。
保護者	学校では年間を通して避難訓練を実施しているが、家庭においても避難場所・避難方法、非常備蓄品、家の危険箇所、家族との連絡方法の確認をしなければいけないと感じた。毎日とはいかなくとも、年に数回、防災について考える機会が大切であると思った。

4 成果と課題

成果	東日本大震災を受け、昨年度から本校の避難訓練等、防災に関わる活動内容に改善が求められていた。今回の講座受講後、講義内容を生かして改善に取り組み、以下のような成果が得られた。
----	--

1 近隣の障害者施設との合同避難訓練（津波発生を想定）を実施

（平成24年5月23日実施）

以前から実施を検討してきた、近隣の障害者施設（以下、施設と言う）との合同避難訓練を行うことできた。本避難訓練は津波発生を想定であったが、このケースの有事が発生した場合、施設の方々が本校の2階へ避難することが現実的である。また、日常と違う環境に抵抗感を示すことが多い施設の方々、本校児童生徒にとって、合同避難訓練は有事に備えて有効であると考ええる。

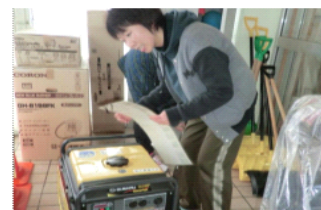


【合同避難訓練】

2 発電機の動作確認を兼ねた使用方法研修会を実施

（平成24年7月20日、平成25年1月10日実施）

東日本大震災を受け、本校でも発電機を購入。動作確認を兼ねた使用方法研修会の他、学校行事「夏祭り」でも実務的に使用して操作に慣れ、有事に備えたい。



【発電機の動作確認】

3 冬季避難経路確保のための除雪を全校職員で実施

（平成25年1月10日実施）

避難経路の除雪は技能技師に依頼していたが、経路の確認をするためにも、全校職員で除雪をした。後日、児童生徒と一緒に経路を確認し、積雪・凍結時の歩き方についても学習する機会を設定した。



【避難経路の除雪】

4 積雪状態での避難訓練の実施（平成25年2月7日実施）

冬季間の避難場所はこれまで検討を重ねてきたが、定まっていないのが現状である。しかし、火災で煙が発生した場合は、どのような天候でも屋外に避難する必要があることから、今回、初の実施となったが、過去の訓練が生かされ、あわてず、騒がず、落ち着いて避難できた。



【積雪状態での避難訓練】

課 題

能代市の「津波ハザードマップ」では、本校は津波により浸水しない地区に立地しているが、想定外を想定する大切さを講義を通じて感じたことから、次の点を課題とし、今後、検討する。

- （1）スクールバス運行時に地震、津波が発生した場合の待避とスクールバス、学校、家庭との連絡の在り方
- （2）放課後や休業中における、地震等災害発生時の児童生徒の安否確認のための巡回等の体制の確立
- （3）非常食（即席麺など）を家庭で準備していただき、学校で保管。また、児童生徒が非常食を調理して食べる経験や、職員が炊き出しを経験する機会の設定
- （4）市の総合訓練や近隣の自治会単位で行われる避難訓練との連携・参加